

“知のぶつかり稽古”

今年の長崎大学リレー講座も、好評のうちに幕を閉じました。一昨年の初回から数えて3回目。リレー講座は長崎の秋冬の恒例イベントとして、すっかり長崎市民の間に定着したようです。

この間、東日本大震災を挟んで、この国の風景は大きく変わりました。それとともに、リレー講座の論点も移ろいました。世界の構造転換の中での日本の進路を考えた初回。大震災後の混乱の最中開催した第2回は、自らの頭で考えることの重要性が語られました。そして今回のテーマはグローバル。世界のボーダレス化が急速に進む一方で混迷を深めるこの国が未来への展望を拓くためには、世界と真正面から向き合うしかないという切迫感が背景です。

今回は大きな変化がありました。聴衆の中の若者の割合が大幅に増えたのです。それを牽引したのは、学部横断の長大生有志が仕掛けたリレー講

座講師と学生たちとの討論会でした。毎回の講座本番前の1時間、トップ人材講師に学生たちが論戦を挑むという試みです。黒川清さんとの会を拝聴しましたが、必死でぶつかってくる学生たちを、黒川さんも真剣に受け止め、跳ね返し、いなし、そしてたまには肯くといった、いうなれば“知のぶつかり稽古”の観を呈していました。

地域社会と大学の知の接点の構築という観点でスタートしたリレー講座に、若者たちの知の鍛錬の場としての意味が加わりました。長崎大学リレー講座は確実に進化しています。

黒川さんは、「若者はとにかく海外に飛び出せ。英語が通じなくても喋り続けよ。求め続ければ必ず自分の夢が見つかる」と檄をとばされました。その言葉をしっかりと受け止めた学生たちが、やがて世界に雄飛する図を想像するだけで、嬉しくなります。



長崎大学長 片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.42

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報Choho〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	“知のぶつかり稽古”	1
特集	長大生、リレー講座に挑む	2
	今、熱い! 長崎大学とケニア 第2弾	11
大学はわたしの仕事場	齊藤幸枝	19
Information	Information	21
	長崎大学「通」クイズ	22
	編集後記	22

表紙のはなし



リレー講座が開催された中部講堂をバックに集合した、自然プロジェクトの面々。左から飯田航生さん(経済学部)、青木大輔さん(経済学部)、藤田桃子さん(医学部)、江島健一さん(医学部)、田尻美佳子さん(長崎県立大学)、岩本論さん(環境科学部)、宮城舜さん(環境科学部)。